

「三重の文化振興方針（仮称）」（中間案）および
 「新博物館のあり方について」（素案）に対する意見まとめ

（市町等文化施設、市町等博物館）

【三重の文化振興方針（仮称）（中間案）に対する意見】

No	該当場所	意見	施設名
1	16ページ 第4章 重点方針(1)概要 文化振興拠点間の役割 分担の考え方	公民館は、企画者として市民が活用する点を重視した施設であり、博物館・美術館・文化会館（専門ホールとしての）などは享受を重視した施設といえる。これは施設そのものの基本機能の違いでとらえるべきで、全ての公共施設が「身近」でかつ「知的・文化的に刺激に富んだもの」でなければならないのは当然のことであり、この両者を「身近」と「文化と知的探求」という側面から規定するのはおかしい。 むしろ、「身近な拠点」と「文化と知的探求の拠点」のAufhebung（独 Aufheben）にこそ、博物館・美術館・文化会館（専門のホールとしての）という専門的公共施設に求められている現代的課題なのではなからうか。 Aufhebung（独 Aufheben） 二つの文化の対立から、それを一にして新しい文化を創り出すこと。 あるものを、そのものとしては否定しながら、更に高い段階で生かすこと。 矛盾するものを更に高い段階で統一し解決すること。止揚。	四日市市文化会館
2	17ページ 第4章 重点方針(1)概要 文化振興拠点間の役割 分担の考え方 「文化振興拠点」間…	文化会館には専門ホールとしての「鑑賞・享受の場」と、開放ホールとしての「活動の場」という二面性を持つ施設である。この点において、文化会館と単純に博物館・美術館などとともに専門館としてひとくりにするのはおかしい。また、17頁の図中の文化会館に専門ホールとしての認識が抜けている点など気になるところがある。	四日市市文化会館

【新博物館のあり方について（素案）に対する意見】

No	該当場所	意見	施設名
1	全 般	博物館として現在考えられるほとんどの機能を網羅してあるが、そのことが逆に特徴を出しにくくしているように思われる。県内の各市町は、それぞれ博物館や郷土資料館をもっているところも多く、地域に密着した活動を行っているが、さらに三重県としてそれらを総合的に捉えることのメリットと、それにかかる多額の経費が県民の理解を得るところとなるかどうか危惧される。	四日市市立博物館
2	6ページ 3 博物館の基本的な性格 (1)「総合博物館」	歴史系博物館については既に県内市町にいくつかあり、県立では齋宮歴史博物館も存在する。したがって、これまでのように自然史系に限定した方が館としての特徴も出るし、県内各館との相互協力の面でもメリットが大きい。 歴史系を含む博物館とするならば、齋宮歴史博物館を活かす方向で検討する方が効率的ではなからうか。 また、収蔵機能のみの館とし、移動博物館を中心に活動するのもよいと思う。県立といえども利用主体は、立地市町の住民にならざるをえないが、移動博物館であれば、県内全域での利用が可となる。	四日市市立博物館
3	6ページ 3 博物館の基本的な性格 (2)「みえの博物館ネットワーク」	県内各館のネットワークづくりは、新博物館がなくても可能なことであり、現に各館はそれぞれ必要により連携を取り合って活動している。	四日市市立博物館
4	12ページ 5 博物館施設の整備の考え方 (1)立地環境 2ページ 1 新博物館整備の意義	立地環境については、三重県のアイデンティティを明確にするのであれば、歴史の面でも自然の面でも伊勢志摩地方や熊野地方が中心となるところで、地理的に中心であり他機関と連携しやすいという理由で県中部に設置するより、設立の意義を中心に考慮した選考の方が適切ではなからうか。その方が博物館の特徴も出しやすいし、利用度の面からも観光客が多く好環境ではないか。文化力は市町単位でつくるものと思われ、例えば新博物館を津市に設置した場合、もっぱら利用主体である津市周辺住民の文化力向上に留まるのではなからうか。県内各市町の文化力がそれぞれ向上する施策が必要かと思われる。 新博物館設置の波及効果により、文化力向上を目指すのであれば、伊勢志摩や熊野地方であれば、県内外から人が集まる地域であり、その効果は広範に及ぶのではないか。博物館は社会教育施設であるが、設置後の運営経費等を考えると、観光面も考慮に入れた検討が必要かと思う。	四日市市立博物館